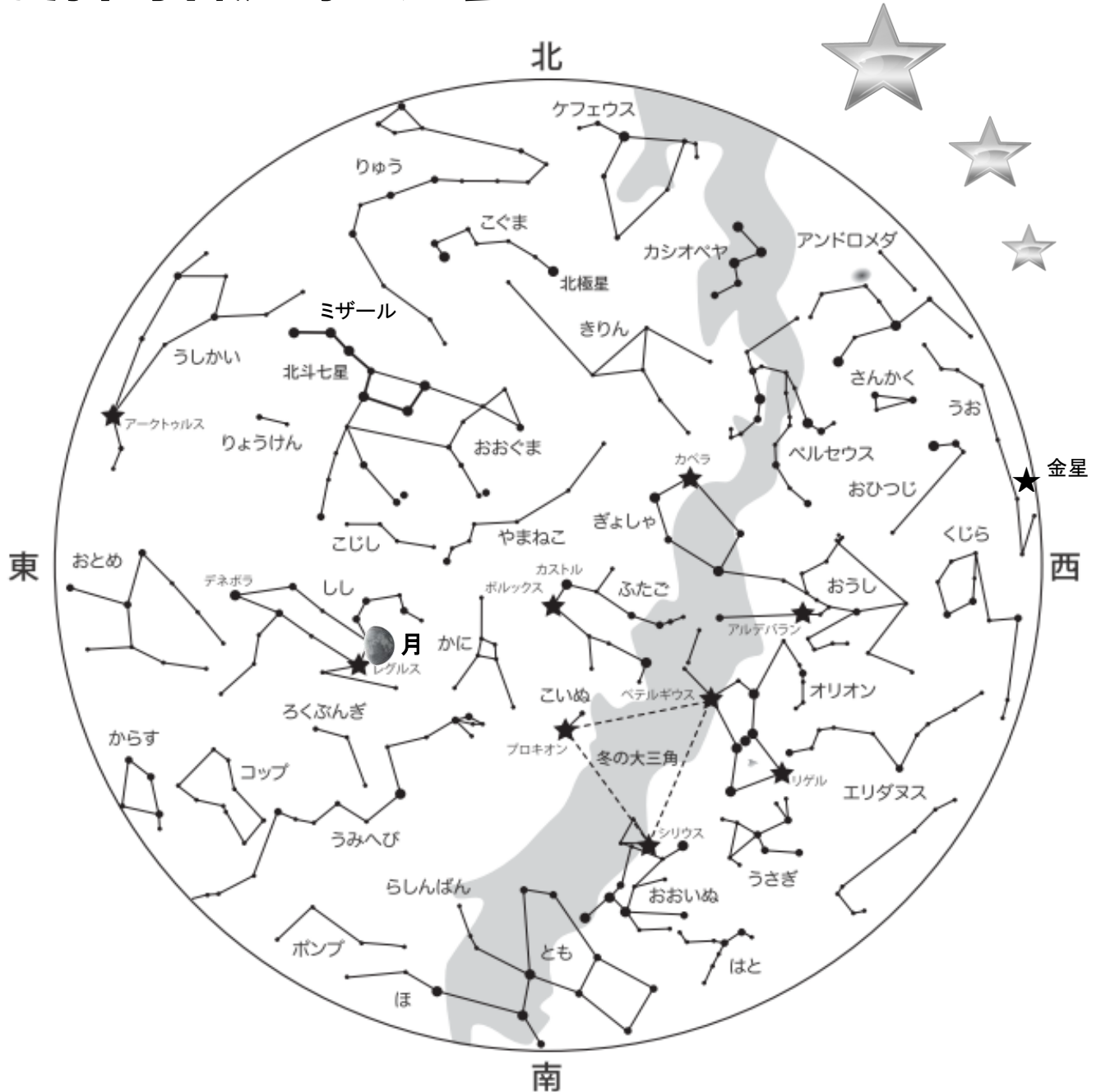


松江市立天文台～3月の天文教室～

平成30年 3月28日

3月下旬午後8時ころの星



太陽が沈んであたりが暗くなると、西の空低く金星が見えます。金星はこれから9月ころまで「宵の明星」として日没後の西の空で明るく輝きます。

暗くなると、オリオン座、おおいぬ座、ふたご座など冬の星座が見えてきますが、夜が更けるにつれ、東から、しし座、おおぐま座など春の星座たちが昇ってきます。

月明かりの中でも良く見える1等星を探してみましょう。

3月下旬午後8時頃の星空です。

月の見かけの大きさは強調してあります。

この星図で星を探すときは、見る方角を下にしてみましょう。

今夜の月

今夜の月は、月齢11

月は地球の衛星で、その直径は3千4百キロメートルあまり、27日で地球の周りを回っています。月が光るのは、太陽の光を反射しているためで、地球、太陽との位置関係でその形が変わります。

月の表面には火山の火口のような地形が無数に見られますが、これはいん石が衝突してできたもので、クレーターとよびます。



金星

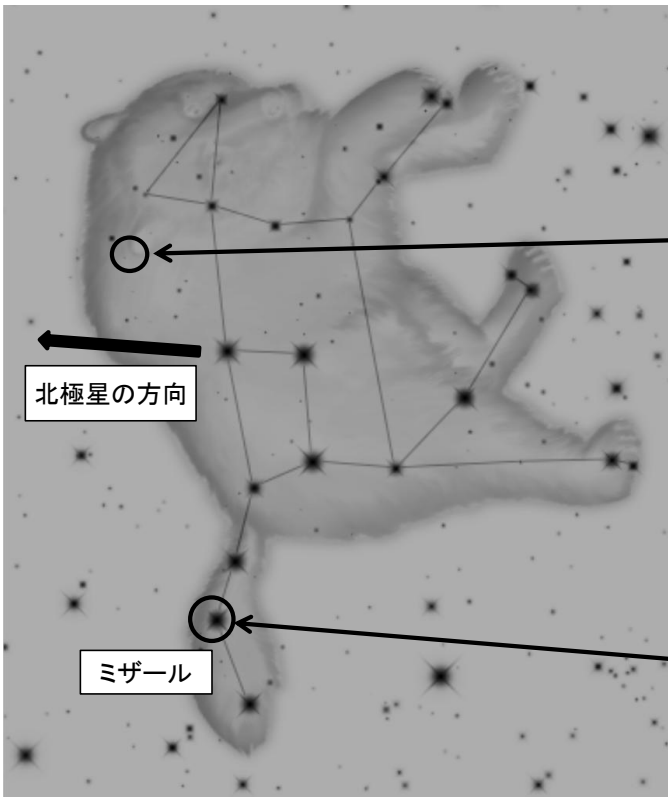
金星は地球より内側に太陽をまわる惑星です。地球より太陽に近いので、太陽からあまりはなれて見えません。夕方に見える時は、「宵の明星(よいのみょうじょう)」、夜明けに見える時は「明けの明星(あけのみょうじょう)」とよびます。

金星は厚い雲におおわれ表面を見ることはできませんが、天体望遠鏡を使うと月のような満ち欠けを観察することができます。



金星は太陽からあまり離れません。

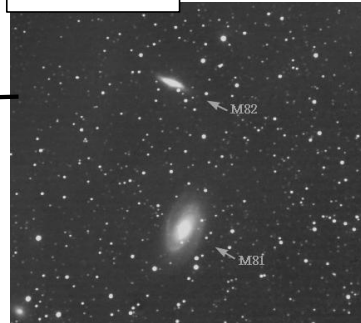
おおぐま座



おおぐま座は、ギリシャ神話で美しい妖精カリストの変身した姿としてえがかれていますが、星座の一部になっている「北斗七星」の方が親しみがありません。

また、北斗七星から北極星をさがすこともできます。

M81・M82



ふたつの銀河が、天体望遠鏡で同じ視野に見えています。

距離はともに1790万光年といわれています。

アルコル

ミザールのそばにはアルコルという小さな星があるのが肉眼でもわかります。

さらにミザールを天体望遠鏡で見ると、二つの星にわかれて見えます。

ミザール

天文のデータは主に天文年鑑から引用しています。使用する天体望遠鏡によっては、視野の上下左右が逆に見えます。また、空のコンディション(雲、透明度)により、天体の見え方は違います。

次回の天文教室

開催日 4月25日(水) 20時から21時まで
(受付は19時30分から市役所正面玄関で行います。)
事前の予約は不要です。



★ MAC Matsue Astronomy Club
松江星の会